

月刊



湖国が滋る・水と緑の街づくり

令和2年1月1日発行 通巻288号  
昭和40年8月21日第3種郵便物認可  
発行/公益社団法人 滋賀県建築士会  
〒520-0801  
滋賀県大津市におの浜1-1-18 建設会館3F  
TEL077-522-1615 / FAX077-523-1602

URL : <http://www.kentikushikai.jp/> mail : [shiga-sa@mx.bw.dream.jp](mailto:shiga-sa@mx.bw.dream.jp)

# CONTENTS

- ・年頭所感…………… 2
- ・青年委員会…………… 3  
「地方建築士研鑽事業 Vol.3」のご案内
- ・女性委員会…………… 4  
DoシリーズNo.81～滋賀を知る～  
「公人屋敷」旧岡本邸と坂本の町並み見学 及び 穴太衆積みに学ぶ
- ・女性委員会…………… 5  
DoシリーズNo.80 国宝宝厳寺『唐門』及び重要文化財『観音堂』『舟廊下』保存修理工事見学 報告
- ・青年委員会  
次世代育成事業「紙の力」～君も未来の建築士～ 事業報告
- ・総務企画委員会…………… 6  
第38回近畿建築祭「奈良大会」報告
- ・まちづくり委員会  
第11回「未来の家」「未来のまち」子ども立体作品展開催のお知らせ
- ・総務企画委員会・情報広報委員会  
機関誌「家」2020年号刊行に伴う建築作品および広告協力をお願い
- ・地区だより…………… 7
- ・ポリテクカレッジからのお知らせ… 8
- ・地区別会員数
- ・1月の暦
- ・滋賀 万葉の旅 第8回  
米原 磯の先



米原 磯の先

### 【原文】

いそ ききこ た あふみ うみや そ みなと たづさは  
「磯の崎漕ぎ廻み行けば近江の海八十の湊に鶴多に鳴く」

### 【訳】

磯崎を漕いで回っていくと、琵琶湖のたくさんの港で鶴がいないよ。



子供の頃、虫メガネに太陽の光を集めて紙を燃やした経験は多くの方が持っている事と思います。太陽の光を一点に集中させてじっと固定していると焦げ目の点ができ、微かな煙を上げて広がり、紙がにわか燃え出す。焦点をふらふらさせてはこうはならない。

単純な遊びだが、この現象はそのまま、人生のあり方を示唆しているように思えます。

焦点を定めて生きないと人生は拡散し、何の結晶も得ぬままに終わってしまう、という事である。剣豪塚原卜伝つかはらぼくでんにこんな逸話があります。武者修行で全国を旅していた頃です。

大きな石が道を塞いでいた。数人がかりでのけようとしたが、びくともするものではない。

そこに石工がやって来て、石の一点つちに槌を打ち込んだ。大きな石はたちどころに割れました。

どうしてそういうことが出来るのか、と卜伝は聞いた。

『石には目があります。そこに槌を当てるとたやすく割れます。目でないところをいくら打っても割れるものではありません』

それが石工の答えだった。卜伝は大いに感じ入り、剣の極意を会得したという。

焦点を定めることの大事さを教えてくれる話であります。

二宮尊徳はまさに焦点を定めて人生を生きただけの人です。

尊徳は天明7（1787）年に生まれ、70歳で生を終えました。それは幕末の国家的動乱期で、内憂外患の時代でありました。その時期に尊徳は貧困にあえぐ農民救済に焦点を定め、国事を一切論じず、一滴の血も流さず、一発の銃弾も撃たず、荒廃した全国600余村を復興し、疲弊した藩の財政を再建したのです。

その根本は四つの教えに尽きる。

「至誠を本とし、勤労を主とし、分度を体とし、推譲すいじょうを用とす」

真心を根本に置き、懸命に働き、自分の分限に応じて暮らし、今年得たものは来年の為に譲る。

子孫に譲り、社会に譲る——この報徳思想の普及と実践が、偉大な成果を生みだしました。

尊徳にはこういう言葉もあります。

「それ我道は人々の心の荒蕪を開くを本意とす。心の荒蕪一人開く時は、地の荒蕪は何万町あるも憂るにたらざるが故なり」

我が道は人々の心の荒蕪を開拓するのが本意である。一人の心の荒地を開拓すれば、土地の荒地が何ヘクタールあろうが心配することはない。必ず開拓できる、というのである。

人心の荒蕪を開拓する——この一点に焦点を定めて生きたのが尊徳の人生でありました。

また、『業根譚さいこんなん』にこんな言葉があります。

「人の小過しょうか（小さなあやまち）を責めず、人の陰私いんし（そっとしておきたい隠し事）を発かず、人の旧悪きゅうあく（ふるい悪事）を念わず。三者以て徳を養うべく、また以て害に遠ざかるべし」

この三つを実行すれば徳を養うことができ、つまらぬ恨みを買わないで済む、というのである。人生、どこに焦点を定めて生きていくか。先哲の言葉はそれを端的に示してくれています。

「日本国憲法及び皇室典範特例法の定めるところにより、ここに皇位を継承しました。

この身に負った重責を思うと肅然たる思いがします……」

令和元年5月1日即位後、朝見の儀の天皇陛下の冒頭のおことばであります。

4月30日から一夜明けただけにすぎない日常の景色が、あたかも平成の色あいから新色へと、一気に塗り替えられた如き空気感さえ感じた「改元初日」でありました。

「一世一元」という厳粛さがもたらすものか、早春に凜然としたものを感じました。

「日本国及び日本国民統合の象徴としての責務を果たすことを誓い、国民の幸せと国の一層の発展、そして世界の平和を切に希望します。」と結ばれておられます。

「万葉集」巻五、梅花の歌三十二首の「序文」から引用された『令和』

『令』は「よい」と言う意味があり、『和』は「整える」「やわらぐ」を意味することばであります。

『令和』初めての新年を迎え、『令和』の時代が、穏やかで、過ごし易い時代となる事を切に願うものであります。

皆様には、新春をお迎えになられ、穏やかにお過ごしのお慶び申し上げます。

本年は、夏に東京で56年ぶりにオリンピック、パラリンピックが開催されます。

まさに『令和』の時代を祝うようなすばらしい一年となります様、祈っております。

会員の皆様のご多幸、ご活躍を心より祈念して年明のご挨拶と致します。



公益社団法人  
滋賀県建築士会

会長

山本 勝義

## 年頭所感





- #1 「地方だからこそ」を学ぶ
- #2 新たな経験と広い視野を持つ
- #3 自らで知識化する
- #4 参加者同士、他県の建築士会と交流を図り親睦を深める

# つくえとげんばの西周会

Vol.3  
姫路から岡山  
せとうちまで



2020 日・祝 2.23-24



令和元年度、青年委員会で展開してきました「地方建築士研鑽事業・つくえとげんばシリーズ」。Vol.1 座談会、Vol.2 見学会で得ていただきました知識と経験を、シリーズ最終回となるVol.3 西周会・西方への旅で改めて深めていただきます。これまでの地方建築士研鑽事業にご参加いただいた方はもちろんのこと、Vol.3 のみのご参加でも、旅をする中で「地方だからこそ」を学び、経験していただけることでしょうか。皆さまのご参加をお待ちしております！

**日 程:** 令和2年2月23日(日)~24日(祝)  
**行 先:** 兵庫県姫路市・岡山県岡山市・倉敷市・香川県高松市・香川県直島

**募集人数:** 32名(会員及び非会員・会員ご家族)・先着順  
**CPD単位:** 5単位(予定)

**参加費:** 会員 35,000円  
非会員・会員ご家族 40,000円

**申 込:** 下記の申込用紙に必要事項をご記入の上、建築士会事務局へFAXをお願いいたします。

**締 切:** 令和2年1月27日(月)  
※定員になり次第締め切ります。  
※参加者には後日、FAXまたはメールにて詳細をお知らせいたします。

行程(予定) ※気象条件、交通機関の都合により変更になる場合があります。道中大型バスでの移動です。  
集合場所: JR彦根駅前・JR大津駅前

**2/23(日)**  
7:00 JR彦根駅出発 ⇒ 8:15 JR大津駅出発  
10:30 兵庫県姫路市「井上茶寮・m1997・lythy」  
14:00 岡山県岡山市「岡山後楽園」  
15:40 岡山県倉敷市「市内CLT事例」  
18:00 宿泊ホテル 東宝イン高松  
18:30 懇親会(四国高松郷土料理・讃岐うどん)

**2/24(祝)**  
7:45 ホテル発 ⇒ 8:12 高松港フェリー  
9:00 直島 宮ノ浦見学  
10:40 直島 本村見学「直島ホール・家プロジェクト」  
13:10 直島 ベネッセ見学「地中美術館」  
14:55 宮浦港フェリー  
19:30 JR大津駅前 ⇒ 20:45 JR彦根駅前

※滋賀県建築士会HP <http://www.kentikushikai.jp/> 【参加申込】からもお申込み頂けます。

## 青年委員会 地方建築士研鑽事業 Vol.3 参加申込用紙

お名前(フリガナ)	住 所	連絡先	会員 ご家族	宿泊部屋希望 (いずれかに○記入)
	〒	電 話 FAXまたはE-mail 当日連絡先(携帯電話等)	会員 ご家族	シングル ツイン どちらでも可
	〒	電 話 FAXまたはE-mail 当日連絡先(携帯電話等)	会員 ご家族	シングル ツイン どちらでも可
	〒	電 話 FAXまたはE-mail 当日連絡先(携帯電話等)	会員 ご家族	シングル ツイン どちらでも可

お申し込みはFAXにて…(公社)滋賀県建築士会 事務局 <FAX.077-523-1602> (お問い合わせは… TEL.077-522-1615)

※取得した個人情報に関しましては、今回の事業以外に使用いたしません。

「公人屋敷」旧岡本邸と坂本の町並み  
見学 及び 穴太衆積みに学ぶ

比叡山延暦寺と日吉大社の門前町として栄えた大津市坂本は、幕府や大名からの支配を受けない「公人」と呼ばれた役職が置かれて町が形成されて行きました。「公人」とは、延暦寺の僧侶でありながら妻帯と名字帯刀を認められた人々のことです。岡本家は代々公人を務めた家系であり、全体に旧状をとどめた社寺関係大型民家の特徴を示す住宅です。また、町並みの特徴として穴太衆積みの石垣が挙げられます。最澄と共に比叡山に登り、開墾のための土木事業を請け負った石工集団が形成した比叡山延暦寺や坂本の歴史と共に育まれた技術です。中でも滋賀院門跡はひとときわ背の高い石垣と白壁に囲まれて、延暦寺の本坊らしい堂々とした外構を見せています。第一部は公人屋敷見学と町並み見学、第二部は「穴太衆積み 伝統と技術の伝承」と題した講演を聴き、歴史に育まれた穴太衆積みを学びます。

この事業は近畿建築士会協議会女性部会主催「第2回近畿の魅力ある和の空間巡行」事業に女性委員会DoシリーズNo.81として参加いたします。



公人屋敷 旧岡本邸



穴太衆積みの石垣

**開催日時：**令和2年3月7日(土)

13:30～17:00 (13:00受付)

**集合場所：**坂本比叡山口駅前 (京阪電車・石坂線)

**定員：**20名 (先着順)

**CPD単位：**3単位取得予定

**参加費：**会員 無料・会員外1000円

**申込締切：**令和2年2月20日(木)まで

**行程：**第一部 13:30～ 公人屋敷見学、石川家見学、坂本町並み見学

滋賀院門跡前 栗田純司氏による穴太衆積みの解説

第二部 15:40～ 「穴太衆積み 伝統と技術の伝承」

株式会社栗田建設 取締役会長 第十四代石匠 栗田純司氏

芙蓉園別館にて 17:00まで

※滋賀県建築士会HP <http://www.kentikushikai.jp/> 【参加申込】からもお申込み頂けます。

## 女性委員会 DoシリーズNo.81 「公人屋敷」旧岡本邸と坂本の町並み見学及び穴太衆積みに学ぶ 参加申込用紙

氏名	フリガナ	勤務先名称	フリガナ
連絡先	メールアドレス	携帯電話	● 会員 ● 非会員
	FAX番号		
CPD番号		地区名	

※取得した個人情報に関しましては、今回の事業以外に使用いたしません。

お申し込みはFAXにて… 公益社団法人 滋賀県建築士会 事務局 (FAX.077-523-1602) (お問い合わせは… TEL.077-522-1615)



## Do シリーズ No.80 国宝宝蔵寺『唐門』及び重要文化財 『観音堂』『舟廊下』保存修理工事見学 報告

11月23日、竹生島に建てられている宝蔵寺の国宝『唐門』重要文化財『観音堂』『舟廊下』保存修理工事の見学研修を行いました。

19名の参加がありました。

秋晴れの元、琵琶湖の美しい景色を楽しみながら竹生島へ。竹生島は神様と仏様が共にお住まいになる「祈りの島」。平安の昔より文献にも記載されている、歴史深い島です。まず、ボランティアガイドさんから、竹生島の歴史についてお話を伺いながら島を散策。都久夫須麻神社の拝殿では、建築士会と女性委員会の発展を願い、思いを込めて土器（かわらけ）を投げてみました。

その後、保存修理工事に携わっていらっしゃる株式会社橋本工務店の橋本慶昭氏より説明を受けながら、保存修理の現場見学を行いました。檜皮葺の屋根の美しさ、漆塗りのあでやかさに感激し、職人さんの繊細な仕事に感心した研修でした。

関係下さった皆様のご協力により、貴重な時間をすごす事が出来ました。参加者の皆さまにも喜んでいただけたと感謝いたします。



足場にて保存修復工事見学



集合写真



唐門保存修復工事

## 次世代育成事業 「紙の力」 ～君も未来の建築士～ 事業報告

12月3日(火)、彦根市立稲枝北小学校にて、次世代育成事業「紙の力」～君も未来の建築士～を開催いたしました。建築士の高齢化や、建築業界の人材不足が問題視される中、少しでも建築に興味をもってもらう未来の建築士の育成に繋がればと思い、昨年より開催しています。まずは、スライドを使っての授業を行いました。小学生に“なりたい職業ランキング”や“建築士とは？”“建築士クイズ”など、児童とコミュニケーションを取りながら建築士の仕事を紹介しました。また、福原委員長が熊本地震時の応急危険度判定に参加した貴重な体験談を話しました。次にCADを使って実際に図面を書いていくオペレーションを行いました。3Dで立上ったり、色をすぐに変えられたりと児童たちは興味津々でした。スライドの授業を終え、続いて工作用紙を使った構造体を制作しました。90センチ角のベニア板の上に工作用紙の赤色を柱、青色を壁、黄色はオールマイティーとルールを決めて1チーム3～4名で各チーム1名ずつ建築士に入ってもらい制作していきました。制作を終え、透明の亚克力板を乗せその上に児童が乗っていきます。6名くらい乗ると紙が潰れて崩れます、児童たちは紙の強さに驚いた様子でした。制作された構造体も児童の発想が豊かで特に優秀なものには表彰しました。授業を終え参加してくれた児童たちに「子ども建築士免許証」を渡し喜びの声を聞くことができ、建築士に興味ある人と質問すると多数の児童が手を上げてくれました。またメディアにも取上げられ建築士・建築士会の良いPRにつながったと思います。

青年副委員長 小森正章（湖北地域会）



構造実験



構造体完成



児童と集合写真

## 第38回近畿建築祭「奈良大会」報告

令和元年11月30日(土)奈良春日野国際フォーラム薨において MY HOME TOWN-このまちで生きるこのまちを活かす-をテーマに開催されました。

滋賀県からは、61名が参加しました。開会式後 第一部では近畿あーきてくとVOL.27「地域の魅力をひきだす建築×○○」3組による取り組み発表が開催され、午後は箏・地歌と能のコラボレーションによるオープニングで始まり記念式典が執り行われました。また、第二部では河瀬直美氏(映画監督)「映画と建築」のテーマで講演をされました。

有意義な1日となりました。滋賀士会の皆様、参加協力ありがとうございました。次回大阪大会(2020年10月17日開催予定)には、今回同様多数のご参加をお願い致します。



地域の魅力をひきだす建築×○○



記念式典



集合写真

## 第11回「未来の家」「未来のまち」子ども立体作品展開催のお知らせ

県内幼稚園の方々、各関係者の皆様にご協力いただき、ご好評いただいている「未来の家」「未来のまち」子ども立体作品展は第11回を開催致します。滋賀県民の皆様、(公社)滋賀県建築士会の存在をアピールすると共に建築士の役割を知って頂きたいと思致します。

**開催日時:** 令和2年2月15日(土)~16日(日) 午前10:00から午後5:00まで

**開催場所:** イオンモール草津(イオンホール)

## 機関誌「家」2020年号刊行に伴う建築作品および広告協力をお願い

昭和27年創刊以来、毎年発刊してまいりました機関誌「家」は、本年5月に2020年号の刊行に向けて準備を始めました。

2020年号はさらなる誌面の充実を図りたいと考えております。

つきましては、士会会員の活動のアピールの場として特に会員作品の頁を充実させたいと考えておりますので、新築作品のみならず、増築、改修、再生等々、会員の皆様の活動の軌跡を数多く掲載し会員の活動を広くアピールできるものと思致します。また、賛助会員様からも広く建築にかかる作品掲載を募集します。建物の新增改築やインテリアの改修のみならず造園エクステリア分野なども広く募集いたします。広告頁への掲載も大歓迎です。

掲載を希望される場合は、同封致しました申込書により、お申込み下さいますよう、よろしくお願い致します。申込書は当会ホームページからもダウンロードいただけますので、ご活用ください。

**締切日:** 作品: 申込書を2020年2月末迄に、写真は2020年3月末迄

広告: 申込書および原稿を2020年1月末迄

**2020年度フォトコンテスト まだまだ作品の応募をお待ちしております。**

※詳細は月刊「家」12月号をご覧ください。(応募締切:令和2年1月31日)



## 湖北地区

## 親睦交流事業 ゴルフコンペ大会

令和元年11月12日(火)名神八日市カントリー倶楽部にて、恒例になってきました湖北地域会・同賛助会・長浜施工管理技士会の合同親睦交流事業ゴルフコンペ及び親睦会を開催させて頂きました。気候も秋らしくなってきました、天気にもめぐまれゴルフには最適の日になりました。ゴルフ大会では上手・下手関係なく、みなさん楽しく笑顔でプレイされていたのがたいへん印象的でした。プレイ後、長浜市グランパレ-京岩にて親睦会・表彰式をしました。参加者様から楽しかったとお言葉もいただき、親睦交流事業としてとても良い一日でした。又昨年を上回るお申し込みを頂き、各地域会様にも参加をいただき大変多くの方に参加いただき、ありがとうございました。

また来年も企画し、建築士の仲間と語り合える親睦の場になればと考えています。



お天気よかった



成績発表でにやにや

## 甲賀地区

## 研修会事業

## 「2020年民法改正と建築士業務」

11月7日(木)、研修会事業として「2020年民法改正と建築士業務」を甲賀市まちづくり活動センターまる一むにて開催しました。

施行までおよそ半年、2020年4月改正民法の施行にあたって、各建築・建設団体で多くの研修が開催される中、建築業界に詳しい弁護士大西洋至先生を講師に迎え、建築士業務上どのような影響があるのか、またその対策についての研修でした。

主に請負契約、設計監理業務に関して、対照条文やスライドなどきめ細かな分かりやすい資料を

## 現場見学会 報告

令和元年11月26日(火)、長浜市木之本町にて建設中の北部地域総合体育館（長浜伊香ツインアリーナ）の現場見学会を開催実施いたしました。いつもの通り、士会会員の他、賛助会、長浜施工管理技士会との合同開催です。

士会関係以外にも、長浜市役所関係者様もご参加いただき、約40名での見学会となりました。

この施設は（2024年）開催の滋賀国体柔道会場として、また地域のスポーツの拠点施設として現木之本運動広場体育館を再整備するための主要施設として計画され施工に至りました。

まずは、旧木之本役場会議室にて設計の大建設計様から設計についてのコンセプトや工夫、また施工の岐建・材信JVの所長様から施工にあたっての苦労、工夫などをプロジェクターや手元資料を基にご説明頂きました。

次に現場に移動、実際に現場を案内して頂き、先の説明にあった点を具体的に説明して頂いたり、現場を見ての疑問に直接お答え頂いたりできました。既存体育館につなぐ設計でもあり規模が大きく見応えがあり大変充実した見学会となりました。

末筆ながら本見学会開催にご協力頂いた関係各位に感謝申し上げます。



トラス部材は案外細いです



現場にて 全員集合



工事概要の説明

基に、改正される内容と、実務での対応を各法文ごとに解説いただく形でご講義いただきました。質疑時間には参加者の皆さまからのご質問が絶えず、注目されている内容であることを実感しました。

今回の法改正は民法というところもあり、施行され動き出さないと分からない側面もあるため、本事業のように事前に改正の枠組みを大きく知ることは、施行後の混乱を緩和する準備として非常に有意義な機会でありました。



弁護士大西先生による講義

## 滋賀職能大からのお知らせ



### 「卒業制作発表会」開催のお知らせ

令和2年2月14日(金) 9:30～

本校学生が2年間学んだ「ものづくりへの挑戦と楽しさ」の集大成である総合制作実習の成果を発表します。

### 「オーダーセミナー」のご相談を承ります。

職場やグループ単位での独自研修会「オーダーセミナー」の企画立案のお手伝いをいたします。下記「学務援助課」までお問い合わせください。

独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構  
 〈厚生労働省所管〉近畿職業能力開発大学校附属  
**滋賀職業能力開発短期大学校(滋賀職能大)**  
 www3.jeed.or.jp/shiga/college/

〒523-8510 滋賀県近江八幡市古川町1414

学務援助課

TEL: 0748-31-2254

FAX: 0748-31-2255

地区別 会員数	支部	大津	湖南	甲賀	湖東	彦根	湖北	高島	湖西滋賀	計
	11月	204	149	80	105	83	134	64	24	843
	12月	204	147	80	104	83	134	64	23	839
令和元年 12月1日現在	差引	0	▲2	0	▲1	0	0	0	▲1	▲4

## 1月の暦

1	水	赤口	元日	11	土	仏滅		22	水	先負	
2	木	先勝		12	日	大安		23	木	仏滅	
3	金	友引	～3 事務局 年末年始休暇	13	月	赤口	成人の日	24	金	大安	
4	土	先負		14	火	先勝		25	土	先勝	ヘリテージマネージャー 上級講座 第5回
5	日	仏滅		15	水	友引		26	日	友引	
6	月	大安		16	木	先負	第8回四役会 第5回四役・委員長会議	27	月	先負	
7	火	赤口		17	金	仏滅		28	火	仏滅	
8	水	先勝	情報広報委員会	18	土	大安		29	水	大安	
9	木	友引		19	日	赤口		30	木	赤口	
10	金	先負	総務企画委員会 建築関係五団体「合同年 賀会」ホテルニューオウミ	20	月	先勝		31	金	先勝	
				21	火	友引					

### 滋賀 万葉の旅 第8回

### 米原 磯の先

米原市磯崎神社前を湖周道路をはさみ、湖畔にあります。  
 万葉歌碑とともに史跡として整備されています。  
 かつてこの地は「磯」と呼ばれていたため、この歌も磯崎を詠んだもの  
 とされている。

ただし、これはいろいろ異論があり何ともいえない。  
 また、歌碑の前の湖畔には「鳥帽子岩」があり、日本武尊の伝説が残っ  
 ている。日本武尊は、伊吹山の荒ぶる神と戦って敗れ瀕死の状態にな  
 り、醒ヶ井の泉で蘇生して、琵琶湖湖畔まで逃げてきたが磯崎で亡く  
 なったと地元では伝わっており、墓石として鳥帽子岩を置いたらしい。

「磯がくれおなじ心にたづね鳴くなが思じでづる人やたれぞも」と紫式部も磯崎の歌をのこしている。

米原市歌碑情報ナビより

